

消防職員不足

# 拡充、若手育成と共に 即戦力採用枠を提案

近年の突発的な集中豪雨や台風災害、そして地震への備えなど、昨年度の議会では、市の防災力や消防力についてわたしは、重点的に代表質問や一般質問に臨みました。特に不足している消防職員の拡充、若手の育成を求めると共に、採用の際、経験者枠、即戦力枠を設けることなどを提案しました。

奈良市の消防職員の条例定数は412人ですが、昨年度は374人と、人員不足グラフ参照IIが明らかになっており、さらに退職者も多く、市民の生命、身体、財産を守る消防力、救急力は低下していると言わざるを得ない状況になりました。また消防職員の各年度の平均年齢を見ると年々高齢化している状況で、「若手不足」も明らかです。職員数が少なく、年齢が高齢化という「反比例」が生じています。

## 知識や連携体制強化へ

### 市全体の防災訓練 実施の重要性提言

これらの問題に対してわたしは、職員の拡充が必要なのはもちろんです、今後の退職予定を考慮した年齢構成が重要と訴え、新規採用とは別に経験がある方々が即戦力となる採用枠を設けることを提案してきました。市はこれらに配慮、今年度の採用数を当初の計画より増加させました。

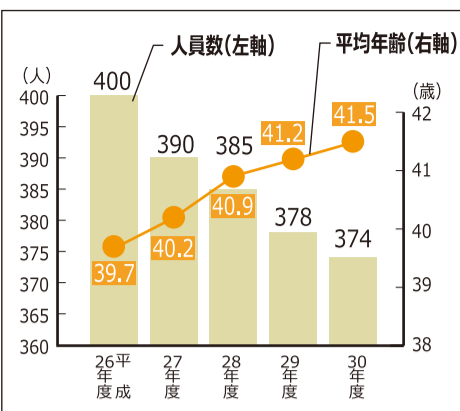
このほか、市の防災訓練のあり方について、提案を行いました。市では10年ほど前までは総合防災訓練を実施していましたが、災害時の自助・共助の重要性から現在は、自治会の自主防災防犯組織をはじめ、地域単位での訓練になっています。地域単位の訓練と市全体の防災訓練を隔年で行い、訓練内容の常態化、メニューの固定化にならないよう、提言しました。わたしは長年、消防団活動に携

わらせていただいております、訓練にも参加させていただいております。近年の自然災害は複雑・多用化していると同時に、高齢者や妊婦、子ども、障害者など、その救助支援の内容も同時に複雑化、細分化しています。

## 進む財政の硬直化

### 長中期的な収支計画 健全な財政運営を

奈良市の一昨年度決算の一般会計は、収入に対する支出の割合を示す「経常収支比率」が100.7%となり、財政の硬直化はますます進んでいます。委員会では「行革に特効薬はなく、地道で確実な取り組みが必要」として、予算編成には長中期的な収支計画を立て、健全な財政運営を求めました。



体制の構築、さらには災害に備えた訓練も非常に大切なことです。これらの訓練がメニュー化されたものにならないよう、さらに新たな知識や連携の体制を取れるように、市全体の防災訓練を行うことが重要と考えます。

本年度の予算編成においては、ポーンズ時の管理職手当を廃止する意向を仲川市長が示されましたが、これに議会のすべての会派が反対し、議会が無駄、無理、緊急性のない事業を精査した上で、同手当の段階的廃止、さらに議員報酬を月額2%カットする修正案を提案し、これを可決しました。

## 「二条尼ヶ辻線」バス廃止

### 市に都跡小児童の安全な通学確立要求

都跡小学校に通学する児童で、佐紀町などにお住まいの子どもたちが通学に利用している奈良交通の「二条尼ヶ辻線」ですが、奈良交通が廃止する意向を持っています。市議会の委員会ではわたしは同社への継続の依頼を市として努力し、それが困難な場合、子どもたちが安全に通学できる手立てを市が確立するよう強く求めました。

都跡小学校へ通う子どもたちで、一番距離が遠いケースでは3キロあり、徒歩では30分から40分以上かかります。体力的にも防犯的にも負担があります。この子どもたちのため、昭和30年代から現在に至るまで平城宮跡から小学校まで、奈良交通がバスの運行をしてくれていました。しかし、運転者不足や路線の収益性などを理由に同社はこの路線を今年3月で廃線したい意向を市に相談されました。継続運行のためには市の財政的な支援も求められています。

市との協議の中、同社は今年9月末まで、これまでと同様の運行をしてくださることになりましたが、その後は市の支援が必要になってくる見通しです。委員会でわたしは「万一、路線バスの継続が難しい場合、市が何らかの手立てをし、子どもたちの安全を確保するように」と強く要望しました。10月以降の運行については、市も「議員指摘のよう、何らかの手立ては必要」との見解を示し、同社との協議を重ねています。

## 平成30年度 質問内容一覧

### 予算審査等特別委員会(平成31年3月14日)

- ・財政および行財政改革
- ・連絡所の業務縮減
- ・都跡小学校の通学路のバス運営
- ・災害関連
- ・近鉄大和西大寺駅周辺整備
- ・大和中央道の整備事業
- ・RPA
- ・100年会館など公共施設の設備

### 総務委員会(同1月28日)

- ・市有地の売却状況について
- ・行財政改革について
- ・昇任試験について
- ・災害発生時の被災者のストレスについて
- ・100年会館の予算措置について

### 12月定例会(平成30年12月4日)

- ・行政改革について
- ・教育委員会の移転案について
- ・平城宮跡南側、積水工場跡地の活用について
- ・消防行政について

### 総務委員会(同10月23日)

- ・9月30日に台風24号における避難所の開設状況について
- ・本庁舎の耐震化について

### 市長総括(同9月19日)

- ・財政問題について
- ・近鉄大和西大寺駅関連について
- ・消防力について
- ・防災訓練について

### 予算決算委員会総務分科会(同9月14日)

- ・今年度の決算における経常収支比率について
- ・歳入予算の決算について
- ・主要な施策の成果説明書から、順次質問

### 9月定例会(同9月7日)

- ・「開かずの踏切」をはじめ、近鉄大和西大寺駅周辺の踏切に関して
- ・近鉄大和西大寺駅立体交差化について
- ・消防職員について
- ・救急隊の配置や育成についてどのように対応されるのか
- ・消防隊や救助隊などの減員これに対して消防活動に影響が出ないのか

### 総務委員会(同8月17日)

- ・奈良市の防災対策や近隣の災害発生時に支援をどのように対処するべきなのか、体制は大丈夫なのかを確認
- ・今回の予算編成と編成過程の流れについて

### 6月定例会(同6月15日)

- ・市長の市政行政と財政関連について
- ・市債残高の市長の認識と将来負担の抑制の考え方について
- ・予算における維持補修費について
- ・近鉄大和西大寺駅周辺の整備計画について
- ・大和中央道の整備について
- ・平城宮跡周辺の整備について
- ・外国人観光客の誘致と受け入れ体制の整備について
- ・近鉄大和西大寺駅から周辺地域へのルート対策
- ・広域的な周辺への交通手段の拡大や、歩行者の安全性を確保した上での観光ルート

### 観光文教委員会(同5月14日)

- ・平城宮跡歴史公園について
- ・なら工芸館について
- ・奈良ブランド推進課がこれまで実施してきた農林部門について